

ずしし環境会議 ニュース

創刊号
2002年1月

発行 ずしし環境会議(エコリーダーズ会議)

事務局 逗子市環境客相談
逗子市逗子5-2-16
TEL 0468-73-1111 内線250

ずしし環境会議発足

平成9年3月に策定された逗子市環境基本計画及び行動等指針(逗子市ローカルアジェンダ21)で「環境の保全及び創造に向けた各種取り組みの実践に向け、市民・事業者が主体となって、自主的に取り組む組織」として位置付けられている「ずしし環境会議(エコリーダーズ会議)」が、平成13年3月31日に正式に発足しました。

役割は・・・

「ずしし環境会議」の役割は、逗子市環境基本計画及び行動等指針の状況の把握やPRを進めるとともに、市への環境政策の提案、意識啓発イベントなどの企画・運営、環境に関する行動の実践及び施策の実践にむけた各主体間との協議です。

また、市内で環境改善のため活動している団体及び個人との情報交換及びサポート活動や、環境に関する情報の収集及び各方面への提供並びに市民・事業者への学習機会の提供などを行います。

組織は？・・・

市民・事業者が活動の主体となった組織です。

会員数は市民・事業者36名で発足しました。(12月現在42名)会全体の運営、意思決定をする機関として運営委員会を設置しています。

三つの部会で活動

「まちなみと緑の創造」「ごみ問題」「二酸化炭素の削減」の各テーマで部会も設置されています。



まちなみと緑の創造部会

逗子の豊かな自然環境・景観について、山・海・川・まちなみの現状を把握し、市内の豊かな自然環境と景観を次世代に引き継ぐため、自分たちが取り組み、皆と協働して実践できることを検討しています。

ごみ問題部会

ごみ問題の基本原則「ごみを出さない」を目指して、自分たちが身近に取り組める分別・買い物袋の持参などを実践し、広く市民に啓発できるよう、また商店街と協力した取り組みなどを検討しています。

二酸化炭素の削減部会

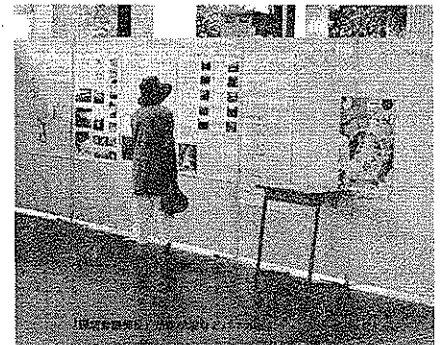
地球温暖化の主な原因である二酸化炭素の排出を削減するため、あらゆる視点から捉え、交通渋滞による自動車交通の問題、省エネルギー・自然エネルギーの問題などから解決のための方策を検討しています。

部会を超えて

また、これら3つの課題を含め各部会の横断的な課題である、環境教育や市民・事業者への啓発活動にも取り組んでいます。

全体の活動

6月の環境月間行事には、市役所の1階ホールで「ずしし環境会議」が発足したこと、各部会の活動状況などのパネル展示をし、市民の皆さんにお知らせしました。そのときの様子です。



発足時からの活動状況

会全体の活動は、年1回総会を開催します。次回総会は平成14年3月頃を予定しています。

運営委員会は、会員の中から互選された委員により、月1回会議を開催。各部会の活動、会全体の運営及び市との調整などを行っています。

各部会の活動は、月1回のペースで開催しています。皆忙しい合間を縫って部会を開催するため、平日・土・日の昼・夜などさまざまな時間帯での会議となっています。

まちなみと緑の創造部会

当部会のメンバーは、現在15名で、地域の歴史や自然に詳しい人、散策が好きな人、設計や行政に携わっている人、事業をしている人、定年後の自分の時間を地域貢献に使おうと考える人等、そのプロフィールや参加のきっかけも様々です。

各メンバーの持ち味を生かした活発な活動を展開しています。

■久木大池と名越溜池

両池とも、周辺の緑と一体の逗子の懐かしい原風景を残し、住宅地に近接した身近な水と緑の空間を提供しています。「久木大池」は、隣接する斜面林が市に寄付され、より身近で親しみもてる空間とするために、その活用や保全の仕方について市民の議論が必要です。また、「名越溜池」には多くの野鳥が飛来し、観察され、豊かな自然が残されています。近接する名越切り通し・大切岸周辺の国指定史跡と繋ぎ、逗子の自然と歴史を学べる懐かしい谷戸風景を復活することはできないでしょうか。

■逗子海岸と田越川

逗子の顔である海岸とそこに注ぐ田越川。近年の海水浴客の減少やマリンスポーツの多様な展開で、海岸の使われ方や人々の接し方も変化しています。海草の漂着、ゴミ、海流の変化によるヘドロの堆積、川の中のボート係留、減少する松等、多くの解決しなければならぬ問題があります。きれいな砂と水の復活や水辺の散歩道・親水公園の整備等、昔の面影を継承しつつ、これからの時代にふさわしい海岸と川の姿を考える必要があります。

■桜山と里山づくり

住宅地に接してある緑の里山は、人の手が入ることで維持される貴重な財産です。また、海岸から眺める逗子の街並みの額縁を形成しています。市内には、桜山をはじめとして、里山を繋ぐいくつかのハイキングコースがありますが、新たな散策路、案内板等の整

■活動テーマ

逗子のまちなみと緑について、まず、現状を共通の認識として共有するために、テーマを決めて、典型的な場所のウォッチングを行っています。今まで5ヶ所をそれぞれ担当メンバーがガイド役となり、現地を見て意見交換をしています。今後もウォッチングを行い、そこで発見したテーマや課題を共有の情報としてまとめる「マップづくり」を計画しています。

備、PRによる自然を学ぶ機会づくりや里山の維持管理の仕組みづくり等、身近に接し、親しみもてる里山づくりが望まれます。

■逗子駅周辺と中心市街

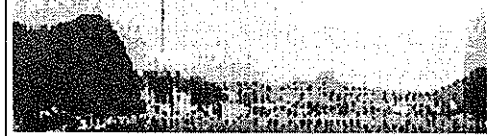
逗子市の賑わいの核となっている駅周辺は、車の集中や長時間の踏切遮断による渋滞、駅からの人の流れ等、人と車が錯綜するエリアとなっています。ゆっくりと安心して買い物のできる、便利で楽しい商店街づくりや、人と車の利用しやすい駅前広場についてアイデアを出し合って検討する必要があります。

■東郷通りと街並み形成

海岸沿いの松林とお屋敷のまちなみが、かつての代表的な「逗子らしさ」のひとつでした。今では、松林も減少しマンション化が進行しています。松と低層のまちなみを現代にどのように引き継ぐか、駅方面から海岸へと導く東郷通りと国道に並行して走る屋敷通り(旧浦賀道)を逗子のシンボルとして位置づけられないでしょうか。沿道の街並み形成のためには、市民・行政・事業者が一体となった合意形成と行動が必要となります。

●2月2日には、二子山周辺のウォッチングを予定しています。興味のある方、是非ご参加下さい。

バス停「グリーンヒル」
午前10時集合
(弁当持参)



ごみ問題部会

私たちがごみ問題部会のメンバーは8名、美容院、新聞販売店の事業者の方も入れ、月一度、不定期に会合を持っています。「他部会にくらべて人気がないのは、ごみ問題は一番身近だけれど、取組むと一番大変だって、分かっているからかな?」なんてメンバーの方と話していますが「ホントは一番大切な部会と思っています。」

今年は、ウォーミングアップの年でした。ぜひ多くの志のある方に参加して頂きたく思っています。

■ずしし環境会議展など

6月に、市役所1階ロビーで早稲田の見学レポートと家庭からでるごみ量調べを展示しました。

8月には、出来ることからのアクション1として駅前電光掲示板へのごみ啓発文の掲示を始めました。これは、クリーンセンターからのごみ量等の資料を出してもらい、会員事業者の方の協力でスタートできました。9月には、ごみ担当の市生活環境課長との意見交換も行ないました。11月には、沼間中学校での社会人先生(4名参加)としてごみの授業を11人の生徒さんと一緒に行ないました。

■早稲田商店街見学寸記

早稲田の地下鉄駅からの道、驚いたのは大学キャンパスにごみのないこと。そして、古紙集団回収のステーションの整然とした置き方でした。

有名な商店街会長の安田さんにお目にかかって、又びっくり。「商店街の活性化とはいわない。自分達のもうけになるからやるんだ。それがエコ商店街として全国に広がっている」とのこと。分解できる袋に入れた生ごみを機械で堆肥化して群馬の農家に持っていく。ごみを持って来た人には、ポイント制で野菜と交換。色々な店で特典のあるラッキーチケットを出す缶・ペッ



■活動としては

まず逗子のごみの現状について意見交換しながら市民と事業者で出来ることは何だろうと話し合いました。商店街での生ごみ問題、プラスチックごみの問題、古紙回収の問題と幅広く意見交換をしました。

5月には、現場を見ることも大事と生ごみ・缶・ペットボトル・古紙の回収、そして商店街活性化につながるエコ商店街を提唱実践しているユニークな早稲田商店街の見学を行ないました。

トボトル回収機で、商店街の売り上げ増。などなどアイデア一杯。「まずは、商店街の方と市民が一緒になってエコステーション実行委員会を作ってみたらどうですか?」の安井さんの言葉が印象的でした。

■電光掲示板による市民へのアピール

8月より、隔月ペースでJR逗子駅前菊池ビル屋上の電光掲示板に掲示文(100文字程度可能)を載せていただいています。

8月は「逗子市の一日当たり一人平均ごみ量1.1kgは水俣市0.7kgと比べ多いので、減量に協力しましょう!」

10月は「一か月の収集量200万kgの処理経費は8000万円の税金でまかなわれているので個人で出来ることを実行しましょう!」



と言うような文面です。ごみ減量にむけて個人ができること、意識の向上に役立つもの、また子供たちにも読んでもらい協力してもらえぬユーモアのある文章を載せていきます。駅前のバス停あたりからよく見えますので、ぜひ多くの人に見てもらえたら幸いです。

二酸化炭素の削減部会

■活動テーマ

当部会のメンバーは現在15名、交通関係に携わっている方、事業者および各方面での豊富な職務経験を持つOBの方々です。

また太陽光による自家発電を実践されている方もおられます。

皆さん多忙な方々ですが月1回の検討会を中心に実践活動を行っています。

環境問題の中でも地球温暖化は最も深刻な問題になっています。温暖化の主要因である二酸化炭素の削減は今や世界各国共通の課題とされています。当部会は市民レベルでの二酸化炭素削減をテーマとして、これまで次の三点を中心に活動してまいりました。

■省エネで経費節減

そして二酸化炭素も

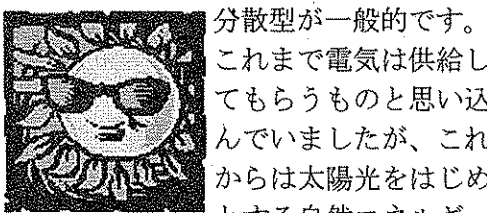
日常生活でテレビ等の待機電流や冷暖房温度などチョットした省エネの工夫により、電気をはじめ水やガスの使用量が軽減されます。これは経済面に有効であるばかりかエネルギー源の節約二酸化炭素の削減にも大きく貢献します。そこで部会では少しでも市民の皆さんにお役に立つよう「省エネチェックリスト」を作成しました。

また街には自販機が大変多く目につきます。国内の自販機の台数は約550万台(国民23人に1台)、うち飲料用が260万台(50人に1台)でこれはなんと世界一の普及率です。しかも一台当たりの消費電力は平均的な家庭の8割にも相当し、しかも冷却・加熱を必要とする飲料用は全自販機消費電力の大部分を占めています。野放しに近い状態の自販機は各種の公害をもたらしていますが、部会では省エネの見地から節度ある適正設置が図れないかを目的として活動しています。

■自然エネルギーにもっと関心を

私たちに最も身近な電気はその多くが石油を中心とした燃料による発電です。しかし石油は温暖化の原因である二酸化炭素の排出量も多い上に、その埋蔵量には限りがあり今後数十年ともいわれています。

一方、太陽エネルギーは環境への影響も少なく無限に近い資源です。近年太陽光や風力による発電をはじめ燃料電池などの研究開発も急速に進み多くの人々から注目されつつあります。またこれまでの発電は大規模な発電所での集中型であるのに対し、自然エネルギーによるものは各家庭や地域単位の



分散型が一般的です。これまで電気は供給してもらったものと思込んでいたのですが、これからは太陽光をはじめとする自然エネルギー

で誰もが自家発電をする時代になっていくでしょう。部会では本年6月の環境月間に市役所ロビーで太陽光発電に関するパネル展示をしました。今後も市民の皆さんに自然エネルギーに対する関心を一層持っていただくための情報提供の機会をより多く作っていく予定です。

■JR逗子駅周辺の交通渋滞解消に向けて

JR逗子駅周辺の交通渋滞がますます悪化し二酸化炭素の排出を加速させています。部会では本年3月、渋滞の原因の一つである池田・金沢両踏切の実態調査を実施、行政・JR逗子駅に次の改善提案を行いました。

(提案要旨1) ラッシュ時における池田踏切の遮断時間は上り電車の信号を調整することにより平均1分10秒短縮可能である。(ラッシュ時、1時間当たり約9分の遮断時間短縮)
(提案要旨2) ラッシュ時における金沢踏切の遮断時間は上り増結車両の信号を調整することにより約20秒短縮可能である。(ラッシュ時、1時間当たり約3分の遮断時間短縮)

上記の改善提案については今後も行政を通じてJR横浜支社にお願いすると共に安全確保の視点からも幅広い市民との協働を呼びかけていきたいと考えています。

ずしし環境会議メンバーが先生に!

さる11月17日(土)に、沼間中学校で「地域とともに生きる学校の創造」を校内研究テーマとして、地域講師による公開授業が実施されました。各学年グループ別に多種多様な方々を講師に招き90分間の授業が熱心に行われました。その中、私たち「ずしし環境会議」のメンバーも環境月間行事で展示したパネルの内容や、会の活動などをテーマに講師を務めました。

1年生120名が6グループに分かれ、そのうちの3グループをまちなみと緑の創造・ごみ問題・二酸化炭素の削減の各部会で授業を受けもつこととなりました。この授業をするというお話をお受けしてから1ヶ月間準備におおわらわ。当日の授業内容やシナリオ、生徒たちへの宿題作成など、あっという間に時間は過ぎてゆき角田先生を始め担当の先生方には大変お世話になりました。

今の子供たちはこんなことも知らないのかと思う反面、私たち大人にとって耳の痛いところを衝かれたり、思った以上に自分たちの身の回りの事柄への関心が高かったことなど・・・子どもの目線は非常にフレッシュであり90分間という短い時間でしたが、とても良い経験をすることができました。

沼間中学校の皆さんどうもありがとうございました。

◎編集後記

- ★限られた紙面で、どこまで私たちの活動内容が伝わるか不安です。
 - ★百聞は一見にしかず、是非、直接参加されてご覧いただければと思います。
 - ★第2号では、今後の各部会活動方針をはじめ提案内容など、ご紹介していきます。
- 編集委員 秋山満正・齋藤 稔・谷 守弘

各部の奮闘振りは...

◆まちなみと緑の創造◆

自分たちの地域を調べてみようをテーマに、4~5人のグループに分かれて床に広げた大きな地図に自分の家から学校までの通学路を書き込み、自然環境など残しておきたい場所・好きな場所・嫌いな場所などメモ書きにして貼り、地域のマップ作りの作業をしました。最後は班別に発表。先生に総評していただきました。

◆ごみ問題◆

ゴミに関するクイズの答え合わせをしながらごみのお話。また分別について、みんながどれくらい知っているのか黒板にメモを貼り出しながら確認した後、いざごみの分別体験。廊下に並べられた雑多なごみに「えー」なんていっていた生徒たちもあっという間に分別完了。次に水俣市の分別との比較をしました。みな、とてもごみの問題について意識も高く講師陣も感激!

◆二酸化炭素の削減◆

ライフスタイルチェックと題して、日常生活の中でどれくらい省エネをしているのか。省エネすることによりどれくらい節約できるのかなどを説明。また、太陽光パネルの模型で仕組みなどを説明し、エネルギーの問題についてよりいっそう関心を高めてもらいました。

●地図の上で奮闘中



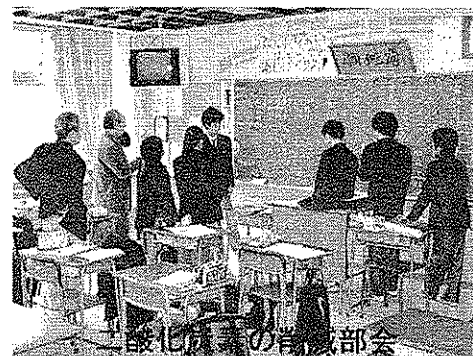
まちなみと緑の創造部会

●いざ、ごみの分別



ごみ問題部会 沼間中学校で

●省エネチェックしてみよう



省エネの削減部会

◎お知らせ◎

「ずしし環境会議」は、こうした活動を通して環境問題に取り組んでいます。皆さんの中には興味や関心があっても一人で活動するのは・・・と思っている方もいらっしゃると思います。そんな皆さん私たちと一緒に活動してみませんか?

参加していただける方を募集しています。参加方法や詳しい内容は、市役所環境管理課までご連絡ください。

TEL 0468-73-1111内256

お待ちしております!

この紙は再生紙を使用しています